

ケア・スピリット論Ⅲ（臨床倫理のあり方）

単位数（時間数）：1 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：4 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・濱中喜代

科目担当者（職位・氏名）：教授・三浦靖彦 准教授・石井真紀子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：97

■ 授業概要

臨床現場で看護師をはじめとして医療従事者が患者本人や家族と向き合い・寄り添いながら医療・ケアを進めていく際に生じる問題に、多職種が共同で対応する際の要になる「どうしたらよいか」を考える営みを臨床倫理という。本講では、基本的な考え方について講義した上で、履修者が実習で遭遇した事例を出し合い、看護学の領域の担当教員と臨床倫理を専門とする医師である担当教員とがスーパーバイズする事例検討を通して、臨床倫理を進める力を修得するよう支援する。

■ 到達目標

1. 現代医療における臨床倫理の必要性について説明できる。
2. 臨床現場で医療・ケアを進める中で生じる倫理的課題について説明できる。
3. 看護現場における倫理的ジレンマについて、倫理的な概念を意識しながら説明することができる。
4. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の基礎について、理解することができる。
5. 臨床で遭遇した事例を説明し、倫理的観点で分析し、多職種連携における看護職の望ましい対応を考えることができる。
6. Jonsen の 4 分割表を用いた臨床倫理検討法の進め方について、理論的・実践的に説明できる。

■ 教育内容

看護の統合と実践

■ キーワード

倫理的課題、課題に気づく力、ケア・スピリット、多職種連携、事例検討

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	現代医療における臨床倫理の必要性 臨床倫理の原則について 患者の権利について	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢多死社会、価値観の多様化、医療技術の革新により選択肢が多い中で、どのような選択をするか？ ・ Beauchamp&Childress の臨床倫理の原則と清水の原則について ・ 臨床現場における倫理的ジレンマとは <ul style="list-style-type: none"> ・ パターナリズムからインフォームドコンセント、Shared Decision Making への変遷（講義） 	三浦
2	患者の意思を尊重すること 患者の意思決定能力とは 患者の意向を表明方法の変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の意思を尊重すること ・ 意思決定能力があるとは、どういうことか。（Grisso, et al. 1998） ・ 尊厳死宣言書、DNAR、事前指示、アドバンス・ケア・プランニング ・ アドバンス・ケア・プランニングについて 	三浦
3	看護現場における倫理的な課題と倫理的実践 (1)	看護現場における倫理的な課題に気づく力 モデル事例の検討（講義・演習GW）	濱中
4	看護現場における倫理的な課題と倫理的実践 (2)	看護現場における倫理的な課題に気づく力と行動 体験場面の検討（講義・演習GW）	濱中
5	看護現場における倫理的な課題と倫理的実践 (3)	看護現場における倫理的な課題に気づく力と行動（ロールプレイ・デブリーフィング） 体験場面の検討（講義・演習GW）	濱中 石井
6	看護現場における倫理的な課題と倫理的実践 (4)	（ロールプレイ・デブリーフィング） 体験場面の検討 演習GW）	濱中 石井

7	臨床で遭遇した事例の振り返り (1) ジレンマとその解決を考える	前回までに作成した各自の体験場面の記述を振り返り、各グループで1事例を選んで、ジレンマとその解決策を検討する (演習GW) 全体会で発表	濱中
8	アドバンス・ケア・プランニングと臨床倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・日本版 ACP とは ・ACP の基礎としての「もしバナゲーム」体験 ・厚労省人生の最終段階の GL を理解する ・臨床倫理コンサルテーションの必要性 ・臨床倫理検討法の紹介 (Jonsen の 4 分割表) 	三浦
9	臨床倫理 事例検討法 (1)	・ Jonsen の 4 分割表を使用した事例検討法 個人ワーク、GW、グループ発表、講評	三浦
10	臨床で遭遇した事例の振り返り (2)	各自が事例検討法を用いて検討 (個人ワーク) その上で、グループ内で発表しあう。	濱中 石井
11	臨床で遭遇した事例の検討 (1)	持ち寄った事例から一つ選んで、事例検討をしながら、さらにグループで検討する (演習GW)	濱中 石井
12	臨床で遭遇した事例の検討 (2)	持ち寄った事例からもう一つ選んで、事例検討をしながら、さらにグループで検討する (演習GW)	濱中 石井
13	事例検討のリフレクション (1)	前回までのGWの結果の発表と共同検討 (全体会・演習)	濱中 石井
14	事例検討のリフレクション (2)	前回は引き続き、GWの結果の発表と共同検討 (全体会・演習)	濱中 石井
15	ケア・スピリット&まとめ	看護現場におけるケア・スピリットの振り返り (GWと全体会) まとめ：ルーブリック評価 (講義・演習)	濱中

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

学修態度（GW への積極的参加や授業時に出される課題提出を含む）40% 最終提出課題 60%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・授業のコメントや質問に対しては、次の授業時までに答えて返却する。
- ・体験事例を記して提示した事例検討結果については個々に最終提出してもらい、コメントして返却する。

■ 教科書

- ・日本臨床倫理学会編（2020）『臨床倫理入門Ⅱ 各科領域の臨床倫理』へるす出版

■ 参考書・参考資料等

- ・赤林朗他監訳（2006）『臨床倫理学 第5版 臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版社
- ・清水哲郎著（2022）『医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学』医学書院
- ・鶴若麻理、麻原きよみ編（2013）『ナラティブでみる看護倫理 6つのケースで感じるちからを育む』南江堂
- ・その他講義中に示す

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業1コマにつき、事前・事後学修として平均するとそれぞれ90分程度必要とする。
- ・授業前後の学習については授業時に指示する。
- ・本授業の場合、授業前後の学修内容として、実習時の体験から事例を取り上げる、その事例を記述し検討するといった作業を何回か課すことがある。

■ 担当教員からのメッセージ

臨床現場では、医療・ケアチームのメンバーは日々、担当する個々の患者本人やその家族と対応しつつ、「どうしたらよいか」とケアの進め方を考えています。そのような考えを筋の通ったものとし、また、チームとしての合意形成をしようとする、本授業科目の中心になる臨床倫理事例検討をすることになるのです。看護職を目指す皆さんにとって実践で役立つ内容です。実習を振り返りながら、一緒に考えましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

濱中：学長室、hamanaka★iwate-uhms.ac.jp

三浦：臨床倫理研究センター長室、miura★iwate-uhms.ac.jp

石井：研究室8 ishii★iwate-uhms.ac.jp

オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問のこと。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

濱中：看護師；学部での小児看護学領域での倫理的な研究や大学院での倫理に関する教育に携わっている

三浦：医師；全国各地で臨床倫理・ACP等に関する講演を多数行っている

石井：看護師；学部での成人看護学領域での倫理的な研究や大学院での倫理に関する教育に携わっている

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

病院における看護師としての経験（濱中・石井）、臨床現場から出された実際の事例についての臨床倫理事例検討の実践（三浦）を踏まえて、実践に直結する臨床倫理の授業を行っています。